

2004 日米科学・技術・宇宙応用プログラム (JUSTSAP) ワークショップ 開催報告

第 14 回日米科学・技術・宇宙応用プログラム (JUSTSAP) のワークショップが “New Horizons for Bilateral Space –Related Initiatives” のキャッチフレーズの下、ハワイ島ワイコロアビーチで 11 月 11 日から 14 日まで開催された。

JUSTSAP は日米を中心とした産・官・学の宇宙開発関係の有識者が参加し、非公式レベルで意見や提案を出し合っ、自由に忌憚のない議論をすることを基本にして運営されており、両国間に共通する新規ミッションを創出するため自由にテーマを提案し、議論する場を提供している。

ワークショップには災害監視・管理・低減、衛星通信、小型衛星、微小重力・材料、宇宙太陽発電、の分科会が設けられており、更に今回より宇宙政策に関する分科会を新しく発足させて活動領域を拡大している。また、今回は、トピカルな議題としてハブルtelescopeのロボットによる修繕に関する特別フォーラムも設けられ議論が行われた。

全体のプログラムは以下のとおりである。

- 11 日 JUSTSAP 運営委員会
- 12 日 オープニングセレモニー
キーノートアドレス
NASA の宇宙探査に関する新宇宙政策 ハワード ロス氏 (NASA 本部)
プレナリーセッション
ロボットによる軌道上サービスフォーラム
宇宙政策フォーラム
- 13 日 分科会セッション
災害監視・管理・低減
衛星通信
宇宙太陽発電
微小重力・材料
- 14 日 分科会セッション
JUSTSAP 運営委員会
閉会プレナリーセッション

衛星通信分科会では、以下の 5 件の発表があり、今後の協力可能性などの議論を行った。

1. スマートサット計画の概要

要素技術の宇宙実証を目的とした NICT (情報通信研究機構) の新しい小型衛星プロジェクトについて NICT 木村氏が紹介した。この衛星は、軌道上サービス、ソフトウェアラジオ中継器、光通信と太陽コロナ観測等の技術を実証する計画として期待される。

2. 惑星間インターネット計画

JPL のバークマン氏が地上と惑星探査機上のセンサー間の時間遅れを主とする通信上の問題を改善するためのインターネットを使った手法の提案を行った。デモンストレーション実験などで今後の協力の可能性がある。

3. WINDS プロジェクト状況

NICT の鈴木氏が地上端末系を中心に WINDS プロジェクトの状況報告を行った。WINDS の走査型スポットビームによるハワイでの協力実験の可能性について議論があった。

4. NEO-GEO 衛星システムコンセプト

GWU のペールトン氏からソーセイル技術を使った天頂衛星システムの紹介があった。ソーセイルを用いて衛星を通常の静止軌道から数千 km 北方向に「浮上」させるシステムであり、8 の字衛星等の準天頂衛星に替わる新しいシステムである。

5. BBISS ブロードバンドインターネット衛星計画

NT スペースの小石氏から BBISS 商用衛星計画の紹介が行われた。WINDS 計画で開発された技術をもとにブロードバンドインターネットサービスを実現するもので日本国内におけるデジタルデバイドの解消を可能とするシステムである。

分科会では、引き続き協力の可能性について E-メールや TV 会議等による連絡をとりあうこと、また協力の可能性のあるプロジェクトについてリストを作り具体化を図ることなどが合意されている。



参加者一同

SJR 読者の方でご興味のある方は JUSTSAP 日本協会のホームページ (<http://www5e.biglobe.ne.jp/~kuroda/justsap.htm>) もご覧ください。協力の提案、会議への参加を歓迎します。

文責 本誌編集委員 鈴木良昭
(JUSTSAP 衛星通信分科会 共同議長)